

生育はようやく回復！これからは、「水管理」に専念し、
適正な「穂肥」を行うことが大切です！！

新・米づくりやまがた日本一運動置賜地域本部

6月30日現在、水稻の生育は平年に比べ、茎数が並～やや少ないものの、平年並の進度まで回復しました。

そのため、作溝・中干し作業を遅れずに行い、適期に穂肥ができる稲にしていきましょう！

また、6月25日に仙台管区気象台から発表された1か月予報によると、**気温が平年並み～高くなると予想**されています。**病害虫の発生を視野に入れ、栽培管理に努めましょう！！**

	川西町上小松		飯豊町椿	
	本年	平年差・比	本年	平年差・比
草丈 (cm)	47.5	101	55.0	107
茎数 (本/m ²)	648	94	611	81
葉数 (枚)	92	±0	100	+02
葉色 (SPAD)	42.7	+0.8	45.5	+2.3
備考	5/22移植		5/16移植	

【東北地方 1か月予報】

6月26日～7月25日

◇ 平年同様、曇りや雨の日が多い
<気温の予報>

6/26～7/ 2 : 高い

7/ 3～7/ 9 : 高い

7/10～7/23 : 平年並～高い

中干しのポイント



～ 中干しは、根腐れ防止・根の健全化、
そして過繁茂防止など様々な効果が期待できます！ ～

- ◇ 茎数が多く、葉色が濃いイネでは、やや強めに1週間～10日くらいをめどに。
- ◇ 茎数がほぼ標準的なイネでは、小ヒビが入るくらいに1週間程度。
- ◇ 茎数が不足ぎみのイネでは、かるく水落とす程度で、葉色を落とさないよう管理。

病害虫対策



～ ほ場の見回りや草刈等、基本を徹底しましょう ～

- ◇ カメムシ対策は、畦畔・農道等の雑草など「生息地」をなくす事が必要不可欠。
7月20日頃まで、地域ぐるみで一斉に草刈を行うことが効果的。
- ◇ 6月21日に本田におけるいもちの発生を確認。
予防剤（育苗箱施用等）を使用したほ場でも、油断せずにはほ場を見回り、
早期発見・早期防除を！
- ◇ 昨年は、「稲こうじ病」が発生し、品質に大きく影響。
昨年多発したほ場では、予防を徹底し、再発を防止！！



【稲こうじ病ってどんな病気？】

- ◇ 本病は「もみ」にのみ発生。出穂7～10日後頃（乳熟期頃）より、小菌塊が現れ、出穂14～20日後まで肥大。最初は黄緑色であるが、その後、濃緑色や緑黒色に変化。
- ◇ 幼穂形成期～穂孕期に降雨が多くて気温が低い、いもち病が多発するような年に発生が多い。
また、窒素の多施用、特に晩期追肥したほ場や山間地などの日照不足になるほ場、晩植えのほ場に発生が多い傾向。
- ◇ 薬剤防除は、「出穂10～20日前」が散布適期。
※薬剤の登録をしっかりと確認し、防除してください。

穂肥のポイント



～ ほ場ごと、生育量や葉色を確認して、適期に穂肥を実施しましょう！

- ◇ 良食味米生産のために穂肥は、ほ場ごと確認し適期に適量を実施。
- ◇ コーティング肥料、有機質入り肥料の場合は穂肥時期を **5日程度早めて実施**。
- ◇ 葉色の低下状況を確認してから穂肥を実施するのが大前提。
もし、**穂肥時期になっても葉色が低下しない時は、減肥対応！！**

ここが大事！
必ず実施！！

【品種別の出穂予想と穂肥の目安】

品 種	穂肥の適期	出穂期（予想）	穂肥時期の目安	穂肥のN成分量
はえぬき	出穂25日前	8/6～9	7/12～15	1.5～2.0kg/10a
コシヒカリ	出穂15日前	8/13～18	7/29～8/3	1.0～1.5kg/10a
あきたこまち	出穂20日前	7/29～31	7/9～11	2.0kg/10a
ひとめぼれ		8/5～8	7/16～19	1.5kg/10a
その他品種	出穂20日前			1.5～2.0kg/10a

【幼穂長と出穂前日数：親茎をむいて幼穂の長さで判断】

幼穂の長さ (mm)	出穂前日数 (日前)
1.0	26
2.0	20
8.0～15	18
8cm	12



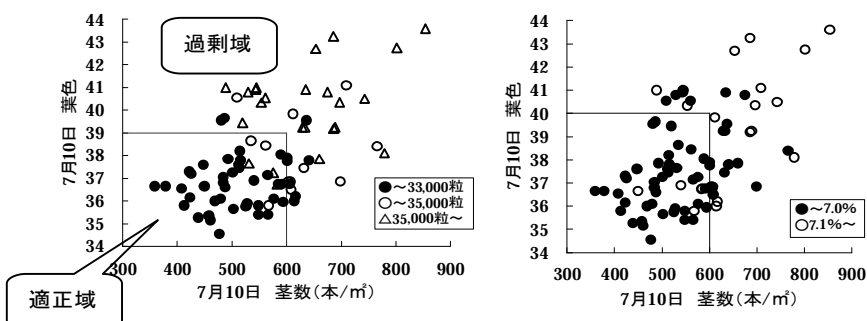
茎数多く葉色が濃い
ほ場は、肥料を減らして
対応しよう。

「つや姫」の穂肥のポイント



～ 「つや姫」の最大の特徴である、「食味」を存分に引き出しましょう！

- ◇ 幼穂形成期の追肥は、**出穂30～25日前、窒素成分1.5kg/10a**が基本。
追肥時の適正な葉色は、**葉緑素計（SPAD）で36～37**。茎数は、**㎡当たり600本以下**。
- ◇ 7月10日の茎数が**600～650本/㎡**、または、**葉色39～41の場合**は窒素成分を減らして**出穂30日前に1.0kg/10a**の施用する。
- ◇ 7月10日の茎数が**650本/㎡以上**、または、**葉色が41以上の場合**、**出穂前25日ころまで葉色が低下したら**窒素成分を減らして**1.0kg/10a**の施用とする。**葉色が低下しない場合は追肥をしな**



栽培履歴の記帳はトレーサビリティの第一歩！今は「安心」なくして、おコメも売れません！！

農薬の使用に際しては、使用基準を再確認し正しく使いましょう…！

農薬情報は山形県が運営する農業情報サイト『やまがたアグリネット(愛称:あぐりん)』

<http://agrin.jp/>を参照ください。

